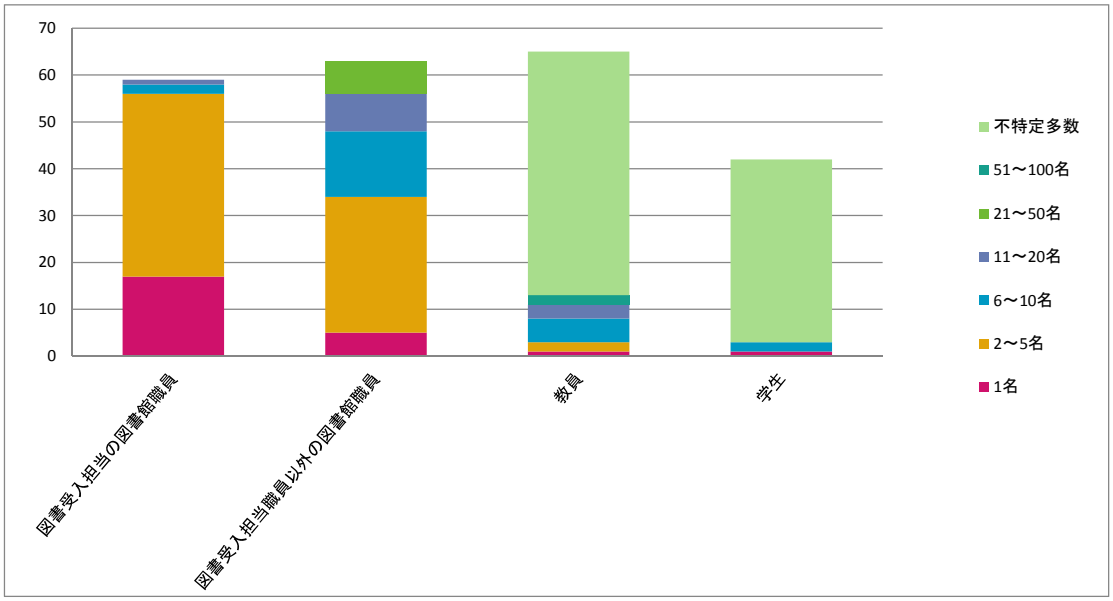
2019年9月27日
富山大学附属図書館

「国立大学図書館の学生用図書の選書に関するアンケート調査」集計結果

令和元年7月に実施した、標記アンケートの集計結果。
自由記述の内容については、同様のものをまとめて記載した（カッコ内が件数）。
実施期間 ： 2019年7月2日～7月31日
配 布 先 ： 国立大学図書館協会会員館（92機関）
回 答 数 ：57大学から計73図書館の回答（2019年9月4日時点）

【設問1】学生用図書の選書は誰が行っていますか？ また、何名で行っていますか？（複数回答可）

	1名	2～5名	6～10名	11～20名	21～50名	51～100名	不特定多数	計
図書受入担当の図書館職員	17	39	2	1				59
図書受入担当職員以外の図書館職員	5	29	14	8	7			63
教員	1	2	5	3		2	52	65
学生	1		2				39	42

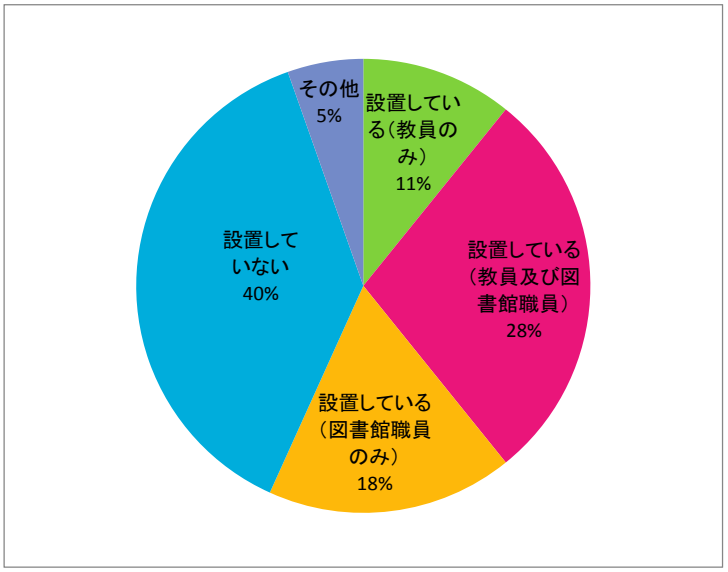


【設問2】学生用図書を選定するための委員会やワーキンググループを設置していますか？

設置している（教員のみ）	8
設置している（教員及び図書館職員）	21
設置している（図書館職員のみ）	13
設置していない	28
その他	4
計	74

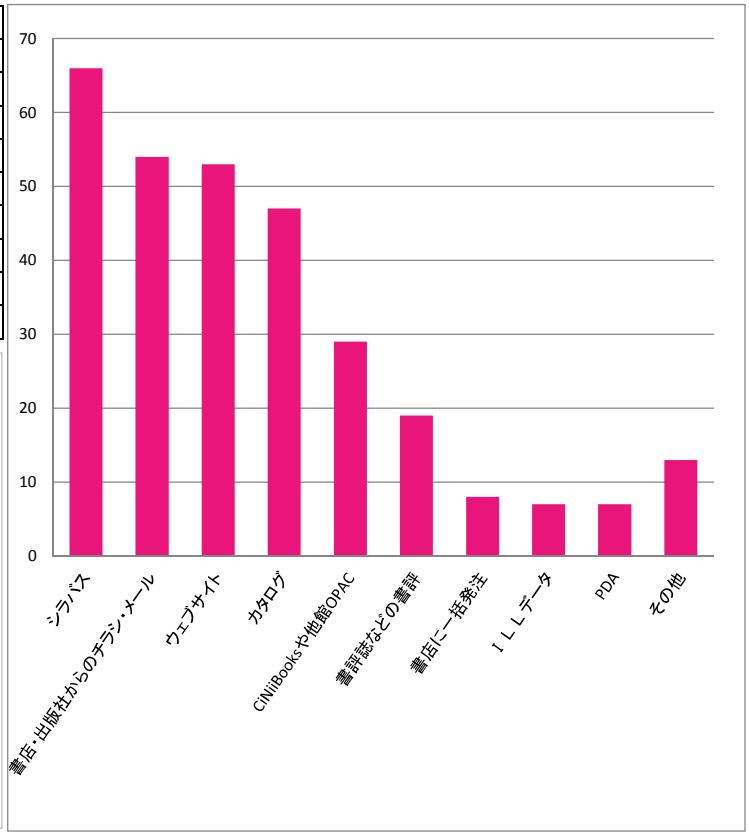
「その他」の記述

・特定の基金による購入のみ委員会を設置
・図書館職員が分野毎担当制で選定を行っている
・学生の図書委員会に選書を依頼している
・「学生図書館ワーキング・グループ」がある



【設問3】学生用図書の選書を行う際、どのようなツールを利用していますか？（複数回答可）

シラバス	66
書店・出版社からのチラシ・メール	54
ウェブサイト	53
カタログ	47
CiNiiBooksや他館OPAC	29
書評誌などの書評	19
書店に一括発注	8
ILLデータ	7
PDA	7
その他	13



「その他」の記述（主なツール）

・教員・職員・学生からの推薦・購入希望（５）
・教員の図書発注データ（２）
・新聞（２）
・貸出・所蔵の多い出版社の一覧を作成し、それらのウェブサイトを悉皆的に調査する（１）
・主題を設定して書店へ選書リスト作成を依頼(紀伊國屋や丸善)（１）
・出版社から提供される電子書籍のタイトルリスト（１）
・大学生協から送られてくる書籍売上データ（１）
・研究室配置図書の利用問い合わせデータ（１）
・課題図書リスト・リーディングリスト（１）
・地元書店による見計らい(郷土資料)（１）
・学生等へのインタビュー（１）
・印刷教材参考文献（１）
・書架チェック（１）
・貸出統計（１）

「よく使うウェブサイト名」の記述内容

・丸善雄松堂 Knowledge Worker（19）　・各出版社・出版会・版元サイト（14）　・紀伊國屋書店 BookWeb Pro（12）
・紀伊國屋書店 ウェブストア（11）　・Amazon（9）　・JMPA 日本医書出版協会（6）　・honto（4）　・丸善新刊案内（3）
・紀伊国屋書店 SmartPLATON（3）　・TRC TOOL-i（2）　・A.D.A.EDITA Tokyo（1）　・e-slip（1）　・Honya Club（1）
・HONZ（1）　・LIXIL出版（1）　・S&T出版（1）　・SBクリエイティブ（1）　・TOTO出版（1）　・アグネ技術センター（1）
・エクスナレッジ（1）　・オーム社（1）　・オライリージャパン（1）　・これから出る本（1）　・コロナ社（1）　・サイエンス&テクノロジー（1）
・サイエンス社（1）　・サンライズ出版（郷土資料関係）（1）　・メディカルオンラインEbooks（1）　・井上書院（1）　・化学同人（1）
・丸善雄松堂 Library Navigator（1）　・丸善雄松堂 Maruzen eBook Library（1）　・紀伊國屋書店 PLATON（1）　・技術評論社（1）
・技報堂（1）　・共立出版（1）　・工学社（1）　・工学書協会（1）　・講談社サイエンティフィック（1）　・三共出版（1）
・市ケ谷出版社（1）　・鹿島出版会（1）　・実教出版（1）　・秀和システム（1）　・彰国社（1）　・裳華房（1）　・森北出版（1）
・神陵文庫（1）　・政府刊行物（1）　・大河出版（1）　・大学出版部協会（1）　・大学生協書籍インターネットサービス（1）
・朝倉書店（1）　・電気書院（1）　・土木学会（1）　・東京化学同人（1）　・内田老鶴圃（1）　・日刊工業新聞社（1）
・日経BP社（1）　・日本の古本屋（1）　・日本建築学会（1）　・日本工業出版（1）　・培風館（1）　・版元.com（1）
・羊土社（1）　・養賢堂（1）　・理工図書（1）　・六耀社（1）

「よく使うカタログ名」の記述内容

・丸善新刊案内（19）　・TRC 週刊新刊全点案内（5）　・トーハン 週刊新刊情報（4）　・ウィークリー出版情報（3）
・各出版社のカタログ（3）　・トーハン メヂカルニュース（2）　・医学書総目録（2）　・丸善医学新刊案内（2）
・分野別図書目録（2）　・ミネルヴァ書房（1）　・医学映像情報センターのカタログ（1）　・丸善雄松堂 Book News（1）
・丸善洋書新刊案内（1）　・丸善雄松堂 Knowledge Worker（1）　・紀伊国屋書店 新刊速報（1）　・紀伊國屋書店 BookWeb Pro（1）
・歯学図書目録（1）　・週刊新刊情報（1）　・週刊日版速報（1）　・図書新聞（1）　・大学生協のブックフェアカタログ（1）
・大学生協売り上げランキング（1）　・朝倉書店（1）　・有斐閣出版（1）　・理工学図書新刊ニューズ（1）

「よく使う書評誌名」の記述内容

・週刊読書人（3）　・図書新聞（3）　・丸善ジュンク堂『書標』（2）　・新聞の書評欄（2）　・BookBang（1）
・岩波書店『図書』（1）　・好書好日(朝日新聞)（1）　・雑誌の書評（1）　・書店から提供される書評一覧資料（1）
・東大出版会『up』（1）　・日経サイエンス（1）　・日本経済新聞（1）

（書店に一括発注）「よく依頼する書店名」の記述内容

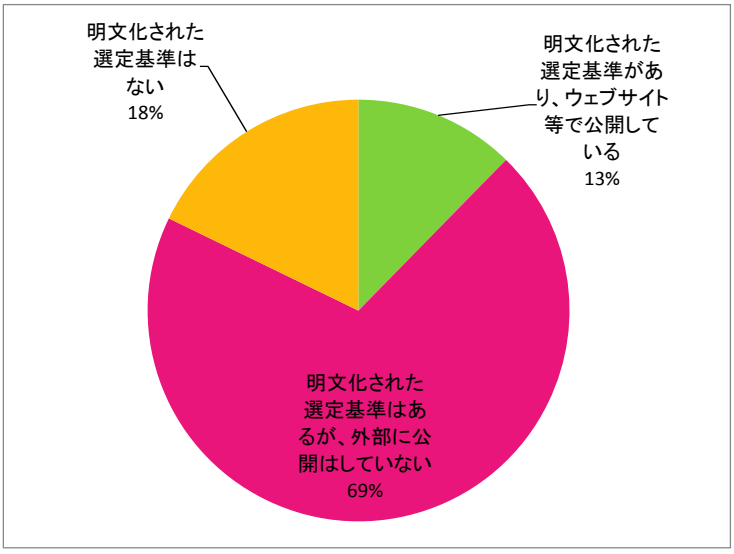
・紀伊国屋書店（8）　・地域の書店（5）　・丸善雄松堂（3）　・大学生協（2）　・TRC（1）　・丸善ジュンク堂（1）　・三省堂書店（1）

（PDA）「ベンダー名」の記述内容

・Maruzen eBook Library（3）　・ProQuest Ebook Central（2）　・Oxford Scholarship Online（1）　・ProQuest Mediated DDA（1）
・Wiley（1）　・OUP（1）

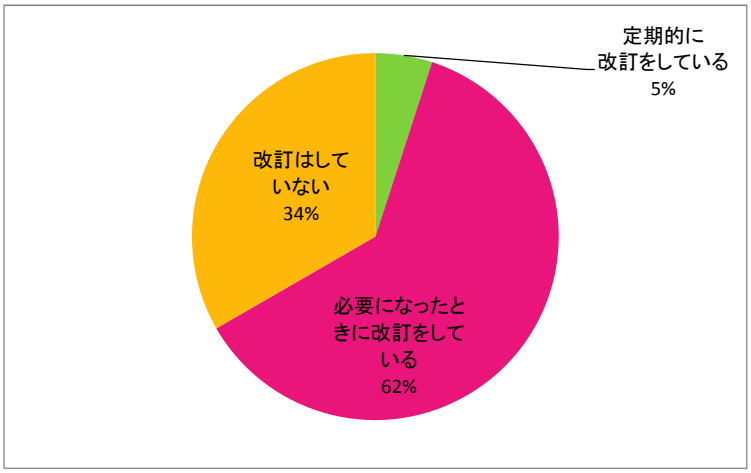
【設問4】貴館には学生用図書の選定基準がありますか？

明文化された選定基準があり、ウェブサイト等で公開している	9
明文化された選定基準はあるが、外部に公開はしていない	51
明文化された選定基準はない	13
計	73



【設問5】設問4で「選定基準がある」と回答した機関にお尋ねします。選定基準の改訂をしていますか？

定期的に改訂をしている	3	・1年ごと（３）
必要になったときに改訂をしている	37	最後に改訂をしたのは ・令和元年度（２）　・平成30年度（６）　・平成29年度（３）　・平成28年度（５） ・平成27年度（４）　・平成26年度（５）　・平成25年度以前（12）
改訂はしていない	20	選定基準を作成したのは ・令和元年度（１）　・平成30年度（１）　・平成29年度（１）　・平成28年度（２） ・平成27年度（２）　・平成23年度（３）　・平成22年度以前（10）
計	60	

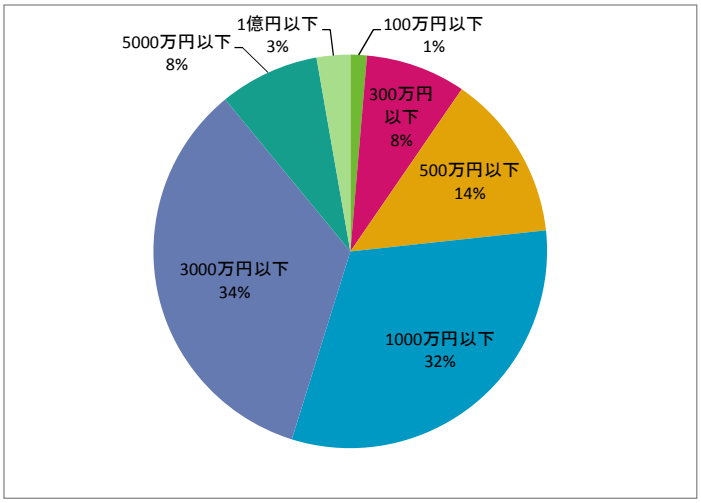


【設問6】設問4で「選定基準はない」と回答した機関にお尋ねします。理由をお聞かせください。

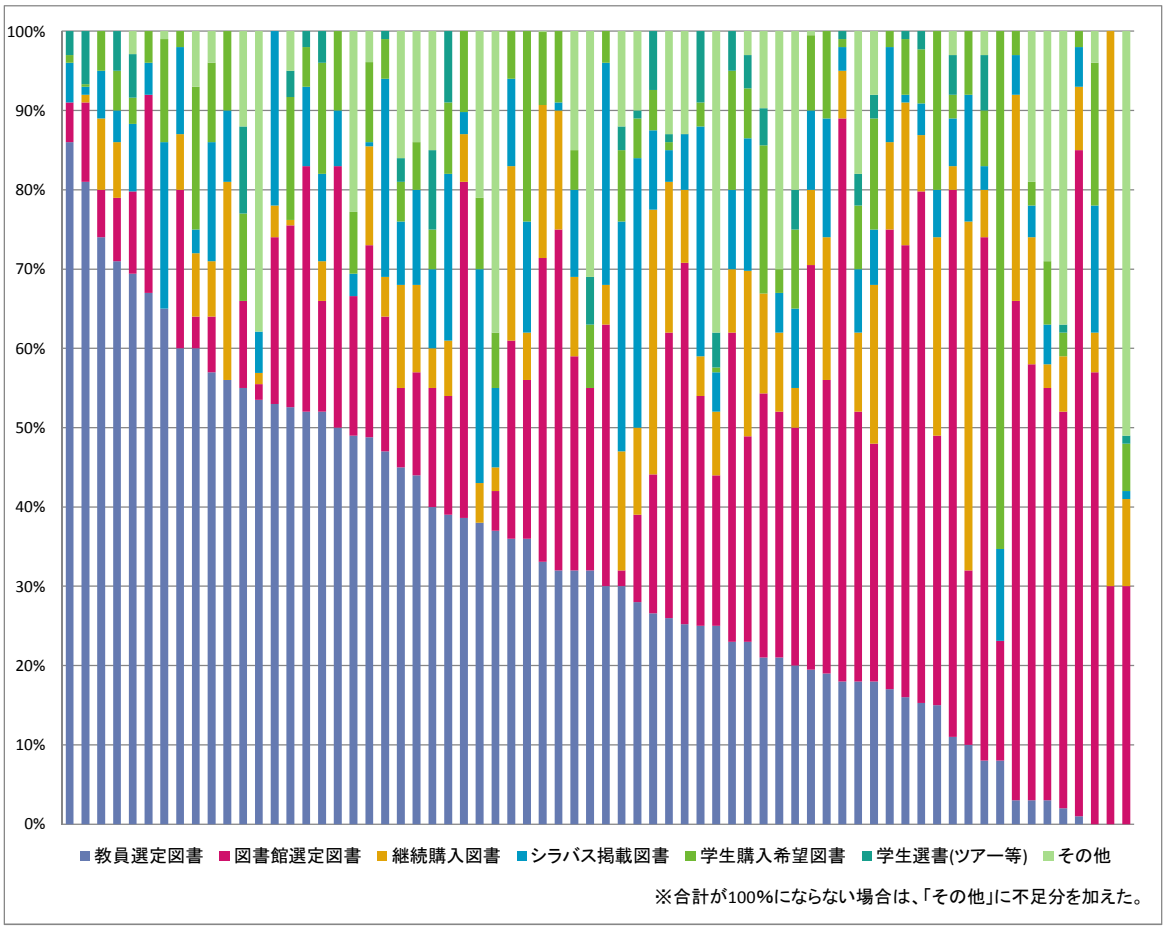
・担当者に任されているため（２）
・毎年度策定する学生用図書購入計画で対応している（１）
・シラバスを基にして行われる教員からの推薦を主としているため（１）
・教員が学生の研究・学習に必要な図書を選定するため（１）
・柔軟な選書に対応できるようにしているため（１）
・明文化する必要がないから（１）
・作成中のため（１）
・未作成のため（１）

【設問7】学生用図書費の予算はどれくらいですか？

100万円以下	1
300万円以下	6
500万円以下	10
1000万円以下	23
3000万円以下	25
5000万円以下	6
1億円以下	2
計	73



【設問8】学生用図書費の内訳はどのような割合ですか？

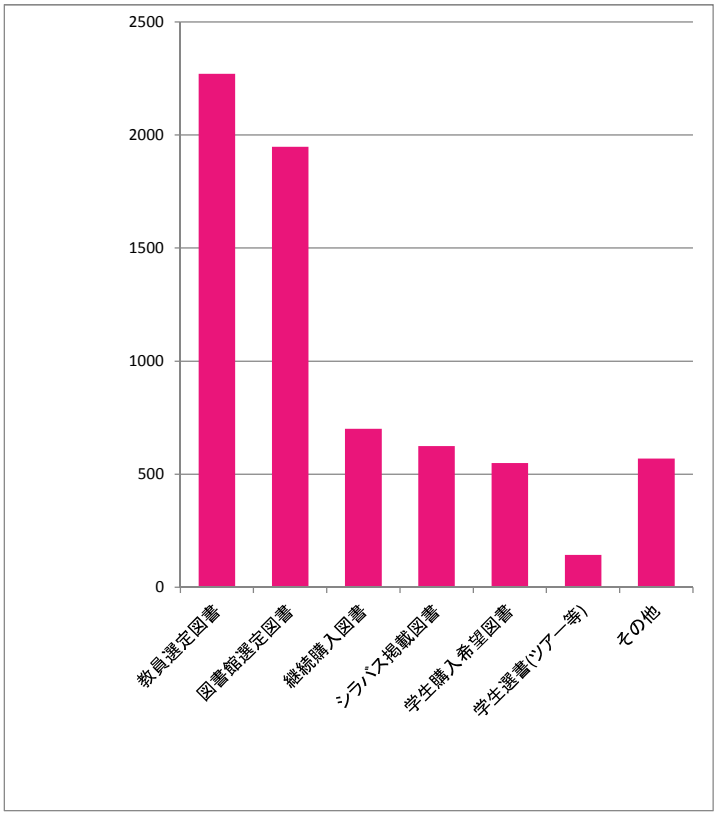


「その他」の記述（主な内訳）

・雑誌（14）　・新聞（4）　・視聴覚資料（4）　・授業関連図書（4）　・放送大学テキスト（3）　・データベース（3）　・電子ブック（3）
・郷土資料（2）　・文科省検定教科書（2）・製本（1）　・展示（1）　・語学（1）　・参考図書（1）　・重点整備（1）　・文庫・新書（1）
・論文執筆支援（1）　・国家試験対策（1）　・印刷教材参考文献（1）・全学共通利用の資料（1）　・ILL学生無料サービス経費（1）
・教員と図書館の共同企画用図書（1）

選択肢ごとの合計%

教員選定図書	2270.6
図書館選定図書	1947.7
継続購入図書	700.6
シラバス掲載図書	625.1
学生購入希望図書	548.8
学生選書(ツアー等)	142.5
その他	569.8



【設問9】設問8の内訳のなかに、予算額と執行額に大きな差がある（50%以上）項目はありますか？
ある場合は、その理由もお聞かせください。

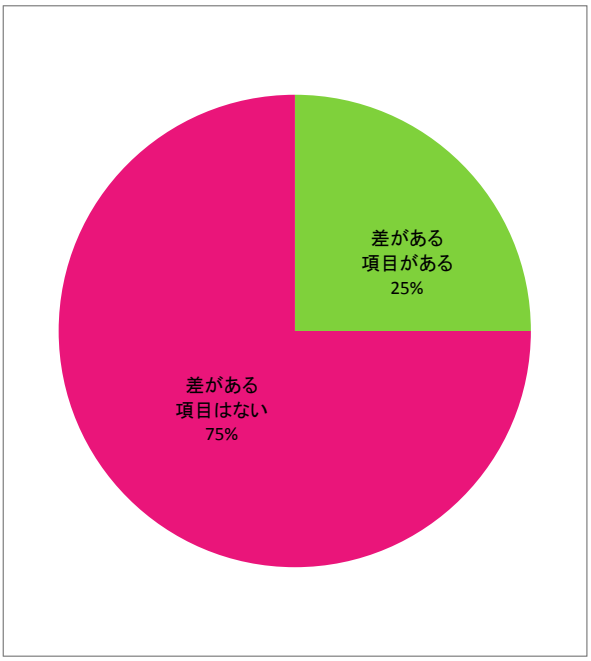
差がある項目がある	18
差がある項目はない	54
計	72

差がある項目

・図書館選定図書（11）
・シラバス掲載図書（5）
・医学参考資料（1）
・学生購入希望図書（6）
・教員選定図書（2）
・授業サポートナビ（1）

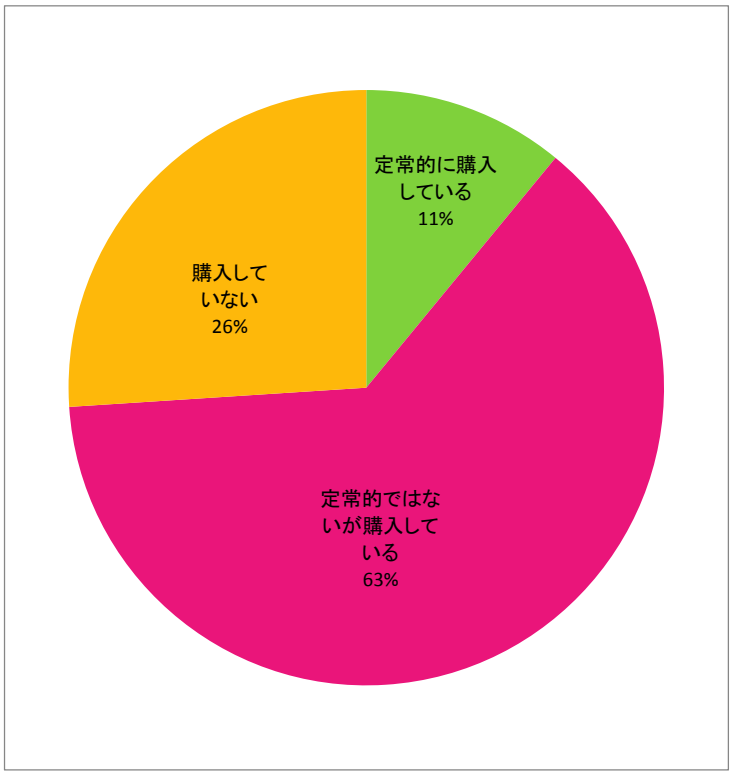
差がある理由

・他の予算で生じた残額で執行したため（6）
・学生購入希望図書が多かったため（3）
・学生購入希望図書が少ないため（3）
・シラバス掲載図書が多かったため（2）
・年度によって執行額に差があるため（2）
・図書館選定図書としての予算を年度当初計上していないため（1）
・図書館選定の電子ブックが含まれていないため（1）
・教科書・参考書の変更・改訂がなかったため（1）
・追加購入した図書があったため（1）
・運営費からの増額があったため（1）



【設問10】学生用図書費で電子書籍を定常的に購入されていますか？

定常的に購入している	8
定常的ではないが購入している	46
購入していない	19
計	73



定常的に購入している(学生用図書費に占める割合)

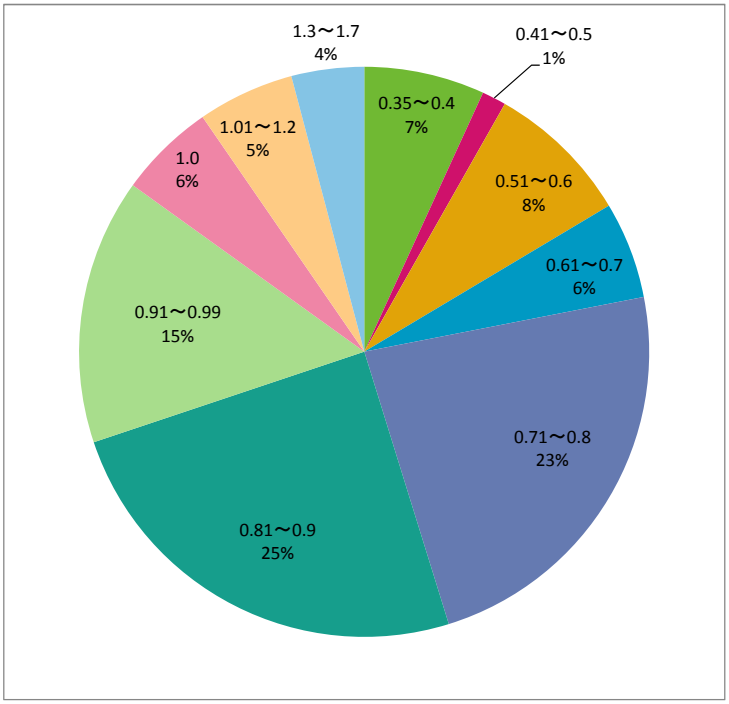
20 %（ 1 ）
19 %（ 1 ）
16 %（ 1 ）
14 %（ 1 ）
10 %（ 3 ）

定常的ではないが購入している(学生用図書費に占める割合)

30.1～40.0 %（ 1 ）
20.1～30.0 %（ 5 ）
10.1～20.0 %（ 8 ）
5.1～10.0 %（ 10 ）
1.1～ 5.0 %（ 9 ）
0.1～ 1.0 %（ 5 ）

【設問11】2018年度の学生用図書費は5年前と比較するとどれくらいですか？（2018年度予算÷2015年度予算）

0.35～0.4	5
0.41～0.5	1
0.51～0.6	6
0.61～0.7	4
0.71～0.8	17
0.81～0.9	18
0.91～0.99	11
1.0	4
1.01～1.2	4
1.3～1.7	3
計	73

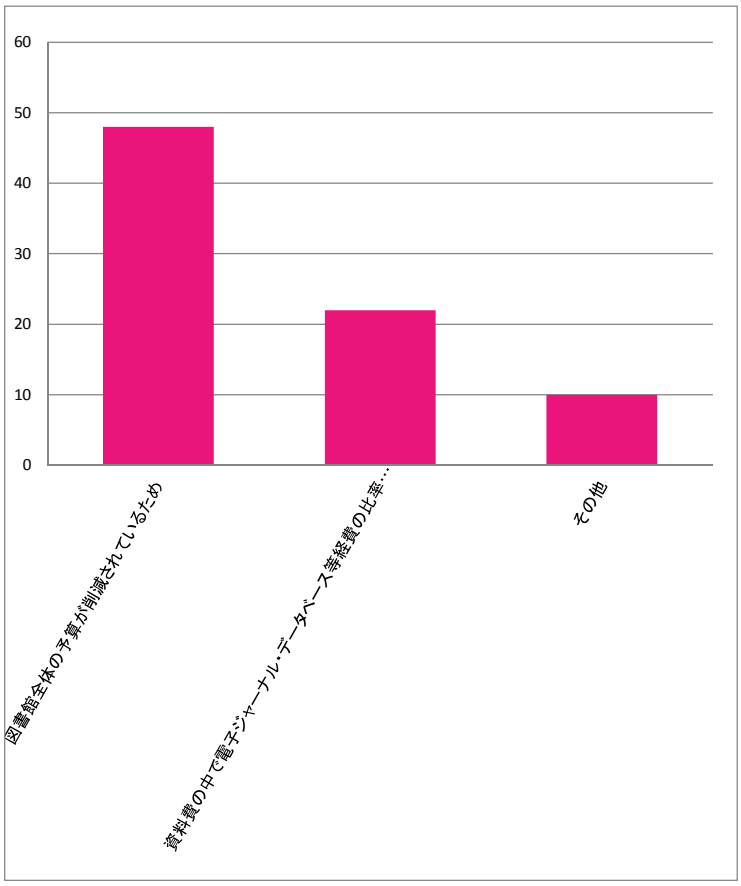


【設問12】学生用図書費が減少している場合、その主な要因は何ですか（複数回答可）

図書館全体の予算が削減されているため	48
資料費の中で電子ジャーナル・データベース等経費の比率が増えているため	22
その他	10

「その他」の記述内容

・2013年度は特別な予算措置がされていたため（１）
・学生用図書予算の案分比を見直した（１）
・授業料収入の1%が学生用図書費として附属図書館に配分されているが、授業料収入自体が減少しているため（２）
・図書館運営費の補填のため（１）
・大学全体の予算が削減されたため（３）
・電子ジャーナル・データベース等の経費が増えており、その影響で学生用図書費への配分が減少しているため（１）
・部局から配分される予算が削減されているため（１）



【設問13】学生用図書費の要求額の根拠について教えてください。（複数回答可）

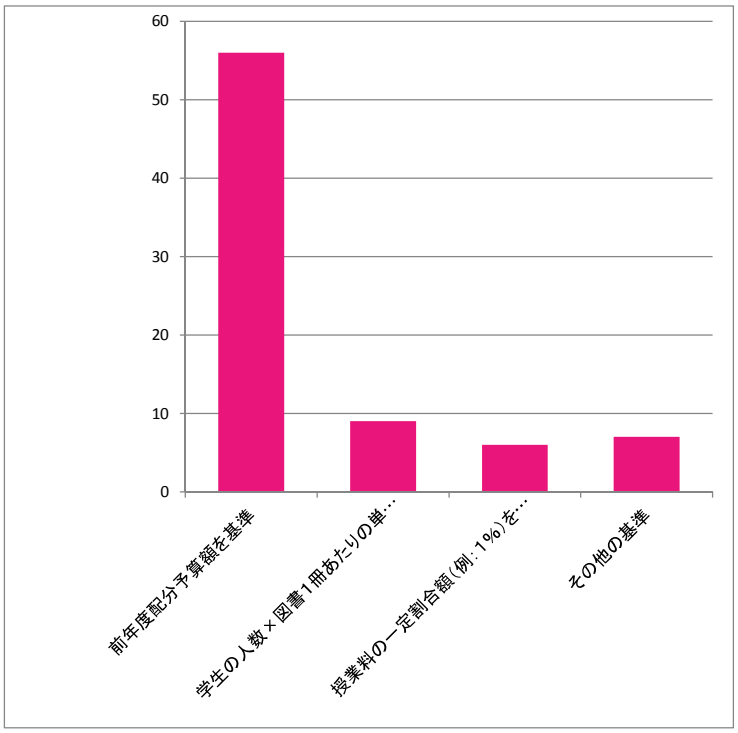
前年度配分予算額を基準	56
学生の人数×図書1冊あたりの単価を基準	9
授業料の一定割合額（例：1%）を基準	6
その他の基準	7

授業料の一定割合額
・1%（３）

理由
・例年この割合で要求しているが、根拠資料は不明
・他大学へアンケートを実施した結果、授業料収入の1%を図書費に充当することが妥当であると判断
・図書館運営委員会で決定した「学術図書資料費による資料整備指針」による

その他の基準

・前年度の実績額が基準（２）
・新規事業として要求（１）
・教員の人数の割合（１）
・学生の人数×図書1冊あたりの単価を基準（１）
・前年度実績値に一定の削減率をかけた額（１）
・経常予算とは別に、同規模大学の学生1人当たり図書費を根拠として臨時予算を要求（１）
・十数年前に授業料の1%を基準として要求して配分され、以後、前年度配分予算額を維持（2020年度より減額予定）（１）

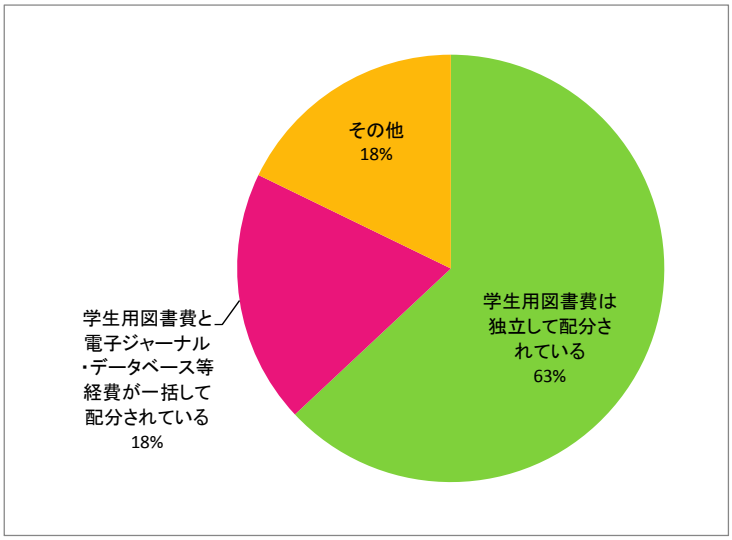


【設問14】学生用図書費はどのように配分されていますか？

学生用図書費は独立して配分されている	46
学生用図書費と電子ジャーナル・データベース等経費が一括して配分されている	14
その他	13
計	73

「その他」の記述

・学生用図書費は図書館運営経費に含まれている（６）
・学生用図書費と雑誌・新聞等経費が一括して配分されている（４）
・一括配分の他に、独立して配分されている経費もあり（１）
・全学共通経費として一括配分されるが、内訳を提示して予算要求をしている（１）
・独立して配分されているが、電子ジャーナル等経費が不足する場合は、一定額を上限として図書費から補填することになっている（１）

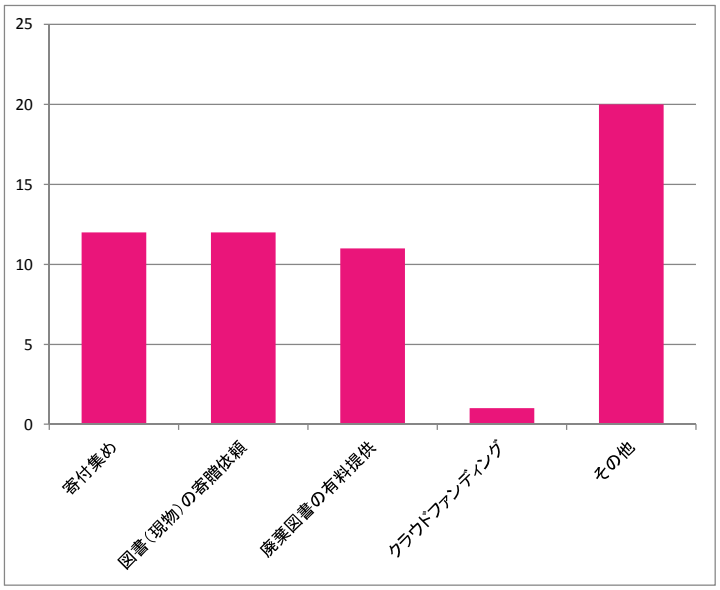


【設問15】学生用図書費の不足を補うために、取り組んでいることがあれば教えてください。（複数回答可）

寄付集め	12
図書（現物）の寄贈依頼	12
廃棄図書の有料提供	11
クラウドファンディング	1
その他	20

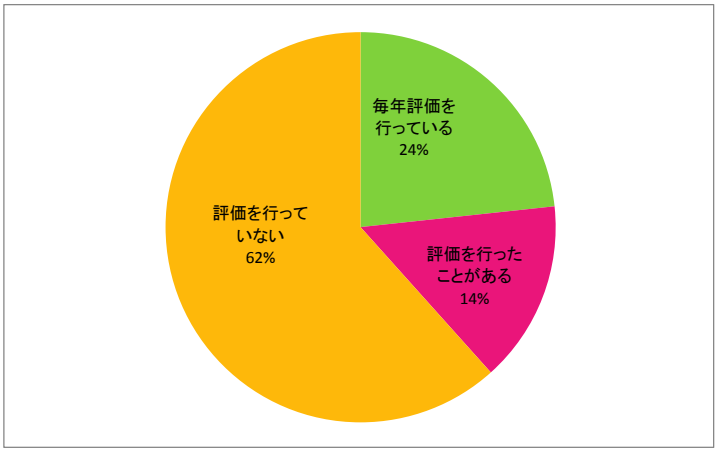
「その他」の記述

・古本募金（13）
・大学の寄附金・基金・後援会費での購入（３）
・図書館の別の予算で購入（２）
・学部や他部署の予算から購入（２）
・寄贈本の有効活用（２）
・学長・副学長裁量経費の要求（１）
・教科書（見本版）の寄付依頼（１）
・複本を購入しないように気を付けている（１）



【設問16】選書した学生用図書の評価を行っていますか？

毎年評価を行っている	17
評価を行ったことがある	11
評価を行っていない	45
計	73



【設問17】設問16で「評価を行っている」「行ったことがある」と回答した機関にお尋ねします。
評価の目的、方法、結果の概要についてお教えください。

目的	方法	結果の概要
学生の自学・自習を推進するため、図書館の蔵書・学修環境等を整備し、学習支援の場としての図書館を充実させるために必要な基礎情報を得ることを目的とする。	図書館利用者（学生）を対象とした調査票によるアンケートを、直近には2015年度に実施。その中で、図書館資料についてどう思うかという項目を設定、4段階で満足度を選択。他に自由記述欄を設けた。	回収率は学生の約18%。 専門図書、教養・趣味のための資料種別毎に満足度を計った。全体的に「満足・やや満足」で概ね80%以上となっているが、学生がよく使用する専門図書、教養・趣味のための図書の「やや不満・不満」の割合がほかの資料より高めの数値であった。
学生リクエストの購入配分を増やすため。	教員推薦図書の貸出回数を調査。	教員推薦図書の貸出回数が少なかったので学生リクエストの予算を多くすることが認められた。
図書委員会への報告のため。	・貸出統計による評価（選定区分ごと）—選定区分ごとの貸出率と回転率 ・貸出統計による評価（分類ごと）—選定区分ごとの貸出率と回転率 ・貸出統計による評価（利用者区分ごと）—利用者区分ごとの貸出率と回転率 ・蔵書構成率と購入構成率による評価—分類ごとに和洋別の蔵書冊数（図書館所蔵分）、蔵書構成率、及び前年度の購入冊数、購入構成率	例年、概ね妥当な数値が結果として出ており、図書委員会からの了承を得ている。貸出延べ回数の約37%が学部学生、約52%が院生である。また、貸出者数の約50%が学部学生、約35%が院生である。貸出関係の数値につき、職員・学生選定の資料、教員選定の資料の間には大きな差が見られない。
自館の蔵書構成および利用者のニーズを把握することで、効果的な選書を行うため。	・毎月の利用統計の取得（主題別・利用者区分別・配置場所別の貸出冊数、語学分野の言語別貸出冊数※対前年度対比付き） ・毎年度末に学生用図書の整備状況を委員会へ報告（学生用図書予算と実績額、主題別購入冊数と所蔵冊数の比較） ・その他、より詳細なデータの取得と分析を数年に一度行っている 取得データの例：主題別・出版年代別の所蔵冊数と貸出冊数、貸出分野・冊数の比較（文系/理系、学部/院前期/院前後による比較） ・教員をメンバーとした蔵書整備アドバイザー制度による学生用図書の評価（アンケートによる意見聴取）	・平成29年度に蔵書整備アドバイザーを対象として実施した学生用図書のアンケート評価に基づき、改善案を作成し、実施している ・利用統計からニーズを把握し、重点的に選書する分野を決めている
図書館職員、教員、学生の選書について、主題分野別の購入冊数や購入後の貸出状況を調べ、主題分野に偏りが無いか、購入された図書が利用されているかを定量的に確認するため。	・前年度の主題分野別購入冊数（図書館職員、教員、学生別） ・前年度の購入図書貸出状況（図書館職員と教員+学生別） ・分野別蔵書構成（NDC分類和書のみ、分野別・貸出回数別に所蔵冊数（割合）を算出）	・図書館職員と教員・学生の選書が補完関係にあることがわかる（一方の選書において少ない主題分野を、他方が補っている関係） 例）教員・学生の選書では、自然科学分野の選定が少ないが、図書館職員による選書でそれを補っている
選書した図書の利用状況を確認し、今後の選書の参考とするため。	選別方法ごとに貸出率（貸出回数／購入冊数）と貸出図書率（貸出図書数/購入冊数）を算出して、運営委員会で報告している。	貸出率、貸出図書率ともに、学生が選んだ図書の率が高い。
直近の購入図書について、選書主体ごとの利用状況を把握する。	平成29年度の選定図書について、2018(H30)年1月～12月の図書館システム上の貸出履歴をもとに選書主体ごとの利用動向を調査した。（指標：蔵書貸出率および蔵書回転率）	選書主体　貸出率　回転率 学生希望　48%　113% 学生選書ツアー　49%　98% 職員選書　46%　98% 教員推薦・シラバス　34%　69% 継続購入図書　37%　62% 全　体　45%　93%
適切な選書が行われているか検証し図書委員会に報告するため。	1.貸出統計による評価 選定区分(教員推薦/基本学習書・教養書・参考図書/継続/シラバス掲載/学生希望)、NDC分類、利用者区分(学部学生/院生/教員/職員/その他)ごとの貸出率(購入図書のうち貸出された図書の割合)と回転率(購入図書1冊あたり平均何回貸出されたか)を算出し、評価する。 2.蔵書構成率と購入構成率による評価 NDC分類ごとの蔵書構成率と購入図書の構成率を算出・比較し、評価する。	専門分野に対応した、学生用図書として適切な選書が行われていると結論した。
利用者ニーズに合った選書になっているかどうか調査し、改善策を検討	選書区分ごとの貸出統計と上位貸出タイトルランキングを委員会に報告	学生による選書の予算を増額
利用者のニーズと選書担当者の選書のマッチング。	図書の貸出統計とその分析を図書館委員会で報告。	・図書を借りたことのある学生の割合は横ばい ・年間図書貸出冊数はやや減少傾向 ・それぞれの学部の教員からの推薦図書が、その学部の学生によく利用されている
	附属図書館運営委員会で、前年度の学生用図書のリストを提示して、評価を受けている。	

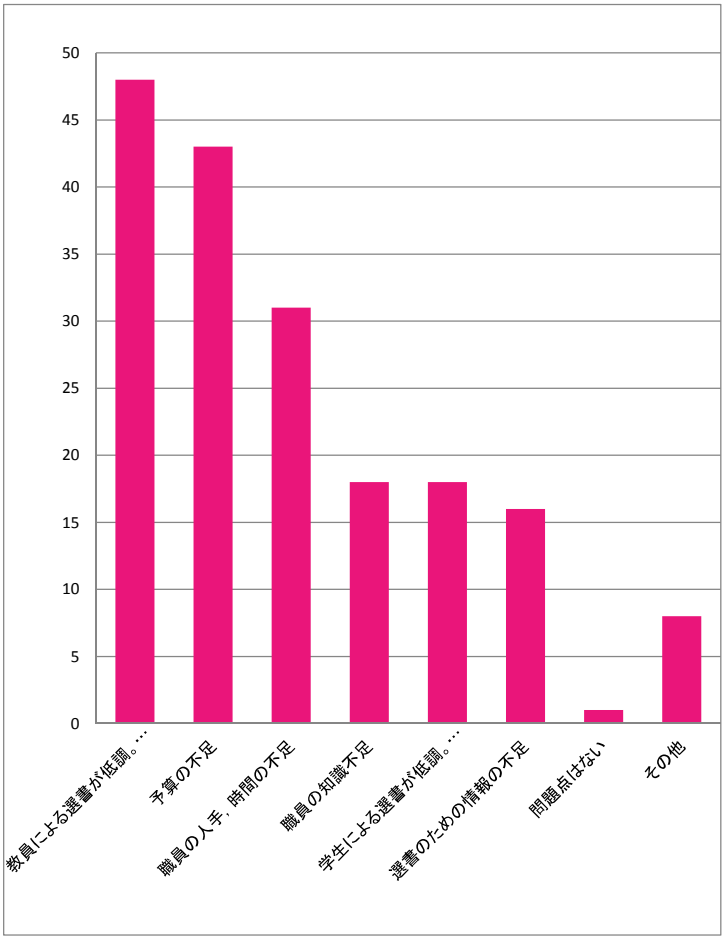
※主な記述内容を記載

【設問18】設問16で「評価を行っていない」と回答した機関にお尋ねします。
評価を行っていない理由をお聞かせください。

・効果的な方法が定まっていないため（ 18 ）
・必要性を感じていないため（ 15 ）
・人手不足のため（ 4 ）
・利用状況の確認は行っている（ 3 ）
・今後実施予定（ 1 ）

【設問19】学生用図書の選書において、問題点はありますか？
（複数回答可）

教員による選書が低調。 または、選定が偏っている。	48
予算の不足	43
職員の人手，時間の不足	31
職員の知識不足	18
学生による選書が低調。 または、選定が偏っている。	18
選書のための情報の不足	16
問題点はない	1
その他	8



「その他」の記述

・教員選書と学生選書を優先させているため、職員による選書額が少ない図書館がある
・教員へ選書依頼した場合、集計・発注・納品までに数ヶ月かかるため、本が配架される時期が学生の多くが図書館を利用する時期とずれてしまうことがある。
・都会のような大きな書店がないため、手に取って確認できず、資料の片寄がある。
・電子リソースへの補填圧力、図書館経費全体には毎年マイナスシーリングがかかることによる学生用図書費の維持困難
・電子書籍の選定方法（予算・選定基準・プラットフォームの選定等）
・買うべき資料のeBOOK化が進んでいない
・書架の狭隘化による蔵書構成のバランスの調整難
・図書館システムが使いにくい

【設問20】学生用図書の選書において、工夫をしていることや、特別な取り組みがあれば、お聞かせください。
※主な記述内容を記載

①予算
・古本募金や寄附金を利用し、学生リクエスト図書購入や選書ツアーを行った。
・学内互助会組織から、別途予算をいただき、学生選書ツアーを毎年開催。専用のコーナーを設け、展示用のPOPも作成してもらっており、好評。
・図書館選定において、バランスのよい選書となるように人文科学、社会科学、自然科学、話題書といった分野毎に大まかな予算の目安を設けている。

②ツール
・教員が学生用図書を選書する際に利用できるよう、附属図書館運営委員にKnowledge Workerのアカウントを配付している。
・ナレッジワーカーを選書ツールとして活用し、選書を担当する教員・職員が推薦したデータを集める際にも利用
・洋書の試読ができる ProQuest Ebook Central を導入して学内に周知している。
・書店に新刊情報をデータ提供させて、選書データとして使っている。

③選定基準
・5カ年計画により、年毎に重点分野を定め、計画的に整備。
・ビブリオバトル紹介本、教員おすすめ図書については、やや軽めの内容の本であっても購入し、学生の読書への興味を喚起している。

④教員選定
・授業を受け持つ教員と連携して、英語学習用多読図書やレポートに必要な図書の購入を行っている。
・「多言語図書」として、4年周期で専攻語の資料を収集している。選書は、対象言語を専門とする教員に依頼している。
・教員推薦図書の中で、教育実習用図書として附属学校の教員にも選定に協力いただいている。
・教員をメンバーとしたアドバイザーに学生用図書の選書や蔵書更新図書の選定を依頼している。
・教員選書においては、教員の負担を軽減するため、分野ごとの新刊リストによる選択方式と幅広く推薦してもらうための自由記述方式を併用している。
・図書館職員が予備選書したリストを各学部の担当教員が確認している。専門的、教育的な見地から学生用図書にふさわしいかどうかを判断してもらっている。
・例年、教員の選書率が低かったため、取次書店に専用カタログを作成してもらい、担当教員を訪問の上、配布してもらった所、選書率が増加した。
・例年、申込期限までの教員の選書率が低いため、期限を延長の上、分野ごとの予算上限も撤廃し、何度も督促するなどしている。
・教員が館内資料を実際に見て、蔵書構成や開架／書庫配置についての意見、購入図書の推薦等を行なう。（年度ごとに担当講座を定めて実施）

⑤職員選定
・受入担当の図書館職員だけでなく全図書館職員による選書を行っている（閲覧・ILL・受入等、業務全体からの視点）。
・学生用図書を部局グループ毎に図書館職員が主体となり、教員のアドバイスを受けつつ連携して選定している。
・研究室図書一時借用依頼やILL申込を受け、当館備付図書としての購入が適している場合には、学生用図書として購入手配を行っている。
・本学と同様の規模・学部構成の大学の新着図書を参考にすることがある。
・他大学蔵書との質的比較をする「チェックリスト法」を独自に開発し、数値結果を職員選書の参考としている。

⑥学生選定
・学生へのインタビューによる聞き取り調査。
・学生へのアンケートに希望する図書のテーマに関する質問項目に入れる。
・年に2回、学生選書員を募集し学生が選書を行う。
・学生自治会図書委員会に毎年選書を依頼している。
・図書館で勤務しているアルバイト学生に一部の選書を依頼。
・ラーニング・アドバイザー（大学院生）にパスファインダーを作成してもらい掲載図書を購入。
・サークル等学生団体と協働した資料展示を積極的に実施（その流れで購入希望を受けることも多い）。
・1年に1回、1か月ほどの期間を設けて、全学生にメールや指導教員からの連絡、サークル団体などを通して購入希望図書の募集を行っている。
・学生図書館ワーキング・グループで、選書のほかブックハンティングやクイズラリー、ビブリオバトル、展示などの企画運営をしてもらっている。
・学生希望図書については、3年前より1人当たりの冊数・金額制限を設けている。
・リクエストを促進するため、一人あたりのリクエスト上限冊数（年度内10冊）を撤廃した。
・ゼミ・研究室単位での選書ツアーの実施。
・洋書の充実を図るため、洋書の展示会を行い、来場者に選書してもらっている。
・書店に依頼し在庫を持ち込んでもらい館内で選書ツアーを実施。この際、持ち込んで貰う本の事前リクエストも募集。

⑦他部署・他機関との連携
・留学生のための図書購入費は留学生担当課から別に措置していただいている。
・大学生協と協力して「新入生にすすめる私のこの一冊」という冊子を毎年刊行している。
・大学生協と連携し、毎月書籍の売上データを提供してもらうことにより、学生のニーズを把握している。
・図書館予算とは別に、教育後援会の協力で学生向け図書（文庫・新書・就職関連図書等）の選定、及び現物寄付を受けている。
・県立図書館他の協力用図書からも、貸出頻度を見て、購入できる場合は購入している。

⑧電子書籍
・電子書籍を定常的に購入するため、「学生用電子資料（電子書籍）」（予算55万円）を確保し、丸善選書購入用試読サービスを導入している。
・電子書籍や視聴覚資料は、図書館用（団体用）向けの選書参考ページやカタログを教員にも案内している。
・全キャンパスで利用できるように、冊子体と電子媒体の双方があれば後者を優先的に購入している。
・学生用の電子ブックについては、今後継続して導入していけるような仕組みを検討している。
・シラバス掲載図書を電子ブックでも購入することにした。
・電子書籍の試読を行い、選書の参考にしている。

⑨ウェブ活用
・過去の学生用図書選定リストをWebで公開。
・ラーニング・アドバイザー（大学院生）が選書した図書をウェブサイトで紹介している。
・独自の選書システムの構築。ウェブ上の予備リストをもとに、選定委員はキャンパス外からも選書可能。
・学生購入希望図書は、Web からも申し込めるようにしている（オンラインフォーム）。

⑩その他
・娯楽図書等を選定候補として投票企画を行い（年10回）、得票数の多かった図書を購入する「話題書投票企画」を行っている。
・学生用図書の納品について、ブッカー及び磁気テープ貼付等の装備も含めた内容で納入業者と契約している。見栄えがよくなり、耐久性も向上。

【設問21】学生用図書の選書の現状や今後の課題等について、ご意見があれば、お聞かせください。
※主な記述内容を記載

①予算
・予算減による購入資料数の低下が問題となっている。
・毎年減少する限られた予算内でのよりよい選書に苦慮している。
・予算の確保とバランスの良い選書ができる体制づくりが求められている。
・予算不足により図書館員による補填的な学生用図書選書を行うことができない年があった。
・予算が厳しい中で、大学図書館の資料として相応しく、かつ利用者の求める資料をどのように収集していくか。
・予算を学系別に配分してから選書されるため、専門書が高額な分野は購入冊数が少なくなってしまう。
・特定の基金による図書購入も期間限定のため、いずれ学生用図書費はゼロになってしまう。
・限られた予算の中、高額な洋書購入はより慎重にならざるを得ないが、選定が難しい（館内利用が多く、貸出数によるニーズの把握もしづらい）。
・図書館（大学全体）の予算が削減される中で学生用図書の予算を確保することが難しくなっている。
・学生用図書の予算確保のため、雑誌購読タイトルを何度も見直しているが、これ以上の削減は難しいというところに近付いている。
・電子ジャーナル・データベース等経費の増加により、図書館の資料費が圧迫される中、学生用図書の予算を維持できるかが課題。
・予算削減と電子ジャーナル・データベース等経費の比率上昇が著しく、その影響で学生用図書費を削減してきたが、それも限界に近い。
・予算面については、本学は他大学等と比べて恵まれていると思われるが、やはり交付金減や電子ジャーナル経費等による影響がある。今後交付金や消費税の動向によりさらに状況が厳しくなる想定で、その対応を検討する必要がある。
・全体の資料費が削減されていることと、電子ジャーナルやデータベースへの支出が増え、図書を購入する費用が相当減額している。大学図書館として最低限の基準を設けてそれ以上の減額を抑えるように大学側に働きかけるなどが必要。
・電子ジャーナルやデータベースの価格は年々高騰するが簡単に中止することもできず、結局図書館予算の中で削減に対応できるのが、学生用図書費になってしまう。そのため、学生用図書費が少なくなり、専門分野の図書以外、学生からの希望がある教養や小説等を購入できない。また、一年を通じて新しい図書をコンスタントに入れたいが、それだけの余裕を持った予算がないため、予算消化具合をみて年度末に購入することが多くなってしまっているのが課題。
・昨年度は他大学と比較した学生一人当たりの図書費を提示し、予算増額を要望したが、今後どのような手法で、毎年の予算削減のなか執行部に予算を要望するかが課題である。
・現在は、学内からの特別な予算・企業からの寄付金等があるが、今後なくなることも予想されるので、外部からの寄附を検討する必要がある。
・寄付やクラウドファンディングなどで、購入費用の自力調達も課題。

②選定基準
・図書館員による選書の明確な方針がなく、担当者の恣意的な選書になってしまう傾向がある。
・図書の選定基準、蔵書構築方針について、マニュアル化レベルでの規定と、弾力的な運用の両立・調整が難しい。
・図書館選定について、ざっくりとした選書方針はあるが、図書館全体としての蔵書構築に関し詳細な方針がないため、長期的な視点での選書の必要性を感じている。
・選書基準の明文化については、外部への公開も含めて課題が多く、数年前の検討以降は進捗が停滞している。これは選書について考えるとき、蔵書構築や評価、除架についても考えが及んで問題が大きくなって検討が難しくなるため。特に評価をどのように業務として定着させるかが問題となっている。
・今年度に入り学生より多巻ものの学習まんがのリクエストがあり、当館では従来まんがは原則として購入していなかったところであるが、収書専門委員会で審議した結果、学習に関連するマンガに限り配架もマンガ以外のものと並べることを条件に購入することとなった。今後上記条件について明文化を検討する予定であるが、学習との関連について具体的に内容を判断する際に苦慮することも予想される。

③教員選定
・教員による選書が予算額に達しない。
・教員推薦図書が一部分野・教員に偏りがちであり、周知や依頼方法に課題があると感じている。
・学生用図書の大半は教員による推薦だが、教員の図書館に対する意識の差が選定にも表れている。
・教員からの推薦が年々減少しているだけでなく、推薦された図書の学生のニーズとの乖離も生じている。
・積極的に図書を選定してもらうためにどのような取り組みを行っているのか他大学の意見を参考にしたい。
・教員・学生とも、各分野から万遍なく図書購入推薦を集めることが難しくなっている。どうすれば推薦してもらうことができるか検討中。
・教員に自由記述で選書してもらう場合、図書館所蔵分との重複が多く、確認作業・再選定等による教員・図書館双方の負担が大きい。また新刊リスト選択方式では、各分野の出版点数が異なり、選定に差が生じている。館員の選定を含め、計画的な蔵書構築を進めるため、抜本的な選書方法の見直しを検討する必要がある。
・教員の選書への意欲低下が全般的に見られる。また、教員の選定が自己の研究レベルを基準としがちで、学生向けの適切な選書が為されていないケースも見受けられる。
・図書館予算とは別枠で寄附金での教員選定図書制度がある学部については、選書依頼が重なることで、教員に負担が掛かり、結果として選書が低調となっている可能性がある。
・教育学部の特性上、予算規模に対して必要な分野が幅広く、職員選定が入門書や広範な主題の図書に偏りがちであり、学生のアンケート等には、「専門書が少ない」との指摘が散見されている。
・分野や選書委員によっては選書への意欲低下が見られる。また、教員の選定が自己の研究レベルを基準としがちで、院生向けの選書は積極的だが、学部生向けの選書に対してはそうではないケースが多く見られる。

④職員選定
・ノウハウの継承が難しいと感じている。
・図書館員の選書能力の育成が行えていない。
・選書作業を行う職員は毎年入れ替わるが、選書に必要な知識・スキルの維持が課題となっている
・本学では一係が選書を担当しているが、職員の異動などもあり、選書スキルの継承が困難であると感じている。選書スキルを維持する方法について知りたい。
・選書作業を行う人員確保が、年々難しくなっている。
・図書館員による選定図書の業務負担が大きく、効率的かつ効果的な選定に課題がある。
・新刊情報の1点1点に目を通すのに時間がかかるため、選書の効率化を検討しており、他館の選書方法を参考にしたい。
・シラバス掲載図書に加え、さらに授業と連携して、学生の必要な資料の購入を積極的に行いたい。
・授業と連携して、「どういった図書を使用する」という情報を掴むのがシラバスレベルにとどまっており、需要に対して後手に回っている。
・学習支援上シラバス掲載内容は重要な情報源となるが、「授業中に指示する」といったものが多く、資料購入等の面で即応性に欠ける。
・授業の中で参考図書として示される資料やレポート課題に利用される資料の情報を把握できておらず、学生が求める資料をタイムリーに提供できないことがある。教員との連携を強化する仕組みが必要だと考えている。
・学生が学習に使用する資料は少ないなりに選べていると考えているが、基礎資料としておさえておくべき（高額な）資料については予算と職員の能力の不足から手が回らない状況である。
・附属図書館と各学部図書館がそれぞれ独自に選書を行っているため、学内で図書を重複して購入していることも多い。全学的に図書の購入予算が減っている中で、調整できる部分があるのではないかと考えている。
・選書体制の見直しも求められている。学部等ごとに担当者を決めて選書することも検討中。
・図書館ワーキンググループだけでは、年間数千冊の受入図書の選書を行うには負担が大きいものと考える。
・職員による選書について、本学は対象となる学問領域が広く、全領域に対応できる体制が取れないため、選書の粗密が発生しがちである。
・選書ワーキングを取りまとめる係は、図書系職員ではない。選書のとりまとめは、図書館に長く籍を置く図書系職員がよいのではないかと考える。

⑤学生選定
・学生希望については、一部の学生による希望が集中しやすいため一般的な学生のニーズが見えづらい。
・図書館をよく利用する利用者だけでなく、来館しない学生や教員等、潜在的な要望をどのように汲み取ればよいのかが課題。
・Amazonを見てか、絶版で通常流通していない資料を希望してくる学生が増えたように思う。
・学生からの購入希望がもう少し増えるよう、より手軽な方法を検討したい。（現在は用紙に記入）
・学生対象のブックハンティングをしても学生の参加が少ない。
・選書ツアーを学生の交通費負担が少ない書店で実施したいが、書店の規模や商品構成など学生のニーズにあった書店で実施するのが難しい。
・選書ツアーについて、留意点等他大学の状況をお聞きしたい。

⑥評価方法
・選定図書の評価・分析も必要と思われるが、体制が整っていない。
・選書した学生用図書の、労力や継続性を考慮した評価方法（利用率等）。
・選定した購入図書の評価方法の検討（予算要求、蔵書構築等に反映させる）。
・学生用図書の評価方法について、他大学の取り組みを知りたい。
・選書した学生用図書の評価」の方法について、具体的な事例があれば知りたい。
・今年、学生用図書の評価をおこなう予定のため、参考になる評価方法があればぜひ伺いたい。

⑦電子書籍
・PDA・EBAの導入。
・電子ブックの選定、PR。
・電子書籍の購入について、人文系教員からの選書がない。
・教科書等での電子ブックのタイトルが不足→出版社が電子での販売を渋る。
・学生の学習や研究に役立つ電子書籍の充実のため、大学図書館向けコンテンツ充実が課題である。
・kindleでのみ発行されているタイトルを希望され、現状提供できないため断ったが、悩ましい。
・医学系の電子書籍は、最新版の提供がされていないことが多いため、購入できるタイトルが限られている。
・冊子体、電子書籍における購入の優先度を明確にできていない。
・電子ブックへの対応ができていないため、どれくらいの需要があるかや、費用対効果の調査が課題。
・当初予算が少なく、電子書籍購入のための予算を確保できないため、計画的に新刊電子書籍を購入することが困難である。
・冊子と電子の優先順位やどのプラットフォームの電子書籍を選定するのか等の基準が明文化されておらず、電子書籍の計画的な選定ができていない。
・電子書籍へのニーズが今後高まると思われるが、その対応をどうするか（蔵書管理や会計・資産管理に係る規定など制度的なものや提供プラットフォームの運用等を含め）。
・学生用図書予算を効率的に使用するためや書架の狭隘化対策のため、電子書籍の導入を進めているが、実際のアクセス数はさほど多くはない。試読サービス等を利用して広報やニーズの掘り起こし等を行っているが、その他、利用促進に繋がる手法があれば情報を共有いただきたい。

⑧その他
・窓口での貸出冊数が停滞傾向にあり、書架スペースが不足しつつある中、次のようなジレンマを感じている。
（1）貸出冊数が増えていない資料の予算を要求する難しさ。財務部からのヒアリングでは、学生用図書の有用性や要求額の算出根拠を求められるが、数値的に示すことが難しい。
（2）貸出冊数を増やすべきか（予算要求のため）、内容を重視すべきか。その一方で、内容を重視した選書を行う能力や余裕もない（熱心に大局的な観点で選書を担当してくれる教員は少ない）のも実態である。
（3）学生用図書を電子書籍として増やしていく方針はあるが、教科書やシラバスに掲載されている書籍で電子化されているものはまだ多くない（例：医学系基本書の最新版）。
・館外貸出可能な視聴覚資料の選定が難しい。購入したい資料と権利処理が合致しないことがある。以前と著作権処理の条件が変わっているものがあり、シリーズなのに、貸出条件が異なってしまうことになったりする。今後また著作権法改正により、変更される予定もありそうだ。動画配信も検討中だが、まだ購入可能な資料が少ない。
・障害者差別解消法、読書バリアフリー法などへの対応を含め、今後バリアフリー対応の資料選定や予算措置をどうするか。
・学生用図書で導入している装備付納品図書について、選定、発注から供用までの期間短縮が課題である。
・改組等もあったため、学生の求める資料が変化していくことが予想される状況である。限られた予算の中で、活用してもらえる資料をどれだけ収集できるか、大きな課題と考えている。
・資料の形態、付録（DL版へのアクセスを含め）等、図書館で提供するには取扱に困る資料が増えており、選書の際にかなり気を遣う。
・年々予算が減る中で、授業関連図書（基本テキスト）の複本をどこまで揃えたらよいか。
・図書が利用される仕組みを各大学図書館で共有して活性化できるとよい。